
旅する龍

海風

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

旅する龍

【Nコード】

N9699A

【作者名】

海風

【あらすじ】

ある龍とある人間の物語。龍は人間に力を与えることを、人間は龍に世界を見せることを誓った――

序章（前書き）

初めての小説です。
読んでいただけたら嬉しく思います。

序章

昔々、人間がまだ繁栄を治めてない時代。

天、空、海、地、火、雷——様々な力を護り司る龍が居た。

龍達はそれぞれの力を誇りに思い、互いに認めてあっていた。

しかし、龍同士の戦いは唐突に始まった。

何が原因かはわからない。だが、その力は凄まじく世界の地形変貌させるほどであった。

龍達の戦いは均衡を保ち、何百年にも及んだ。

差なんつものはほとんど無かっただろう。何が勝敗を分けたのか、戦いはやがて終わった。

負けたものは意志を持たぬただの力とされ封印、勝ったものは力を使い果たし眠りについた。

時は流れ——現代

封印されていた内の一匹の龍が目覚めた。それが偶然か運命かはわからないが……

第一話 平穩

柔らかに頬をなでていく風、穏やかに浮かぶ雲、優しい光を放つ太陽も何もかもがいつもと変わらず、誰もが今日も平穩な一日が過ぎ去ると思っていた。

『ねえ、今日は何する？』

『うーん、何して遊ぼうかあ……』

『どうすっかなあ』

いつもの様に村の広場ではメイヤ、カイル、リュカの三人がこれから何をして遊ぶのかを話し合っていた。

三人の住んでいるパークスという村は周りを森や山に囲まれた小さな村で、村人全て合わせても50人に満たない。子どもは生まれただばかりの赤ん坊を除けばこの三人しかない。

『カイルは何したい？』

『何でもいい……もう、二人で決めていいよお』

メイヤの呼びかけに欠伸をしながら眠そうな声でカイルが答えた。
『え？ カイル何でもいいのか？ じゃあ、もう反対意見とか聞かなくていいな』

それを聞いたリュカが口元を少しつり上げた嬉しそうな顔をしながら言った。

『そっかそっか。カイルが反対するんじゃないかってことだけが不安だったんだ。じゃあ、今日は村の外の探検に決定な』

その発言を聞いた瞬間、カイルの目は大きく見開けた。さっきまで眠そうにウトウトとしてたとは思えないほどに……。

『えー！ それは、だっむぐあ』

カイルの意見が口から出きる前にリュカに手で口を塞がれてしまった。

『メイヤも村の外の探検、賛成だよな？』

『もちろん』

『じゃあ、決定な』 カイル抜きで話はどんどん決まっていくな。まあ、二人で決めていいと言ったのはカイルだが、まさかこんな方向に話が進むとは思っていなかった。

『むぐっ、むがあ、村の外に出るって言ったって、またどうせ村長に見つかって説教だよ』

やっとの思いでリュカの手を外したカイルが言う。

『それならきつと大丈夫。なんかお客さんが来るんで忙しいって言うってたから』

これなら行かないで済むかも、と淡い期待を抱いたカイルの言葉をメイヤの一言が無惨にも散らした。ちなみにメイヤは村長の息子の娘。つまり、村長の孫である。一緒の家に住んでいるから知っているのだろう。

『おお、なおさら今日行くしか無いじゃん』

メイヤの言葉はリュカの行く気をも増大させた。

『じゃあ、行くかあ』

『探検♪探検♪』

『嫌だああアアア』

楽しい二人に引きずられていく一人の少年。彼の叫び声は村を出てもしばらくは聞こえていた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9699a/>

旅する龍

2010年10月20日12時27分発行